



合に非常に移動度が小さくなることを見出した。その結果を解釈するため、吸収スペクトルや光電子スペクトルの解析を行った。

3) の研究においては、新規なトリフェニルアミン誘導体である、2-[p-di (p-tolyl) aminostyryl]-4-methylthiazole をドーブした分子分散ポリマーを用いた有機光導電体 (OPC) を作製し、その光導電特性を評価した。その結果、光応答は早いが残留電位が高いことを見出した。残留電位が高い原因をOPCのゼログラフィックゲインの測定から明らかにし、電荷発生材料を適当な材料に置き換えることでその対策が可能なことを示した。

4) の研究においては、オキサジアゾール誘導体をドーピングした分子分散ポリマーを電子輸送層に用い、発光層にPPV誘導体を用いた有機LEDの特性を評価した。その結果、AlやInの空気中で安定な電極を用いても高い発光効率を実現できることを見出した。